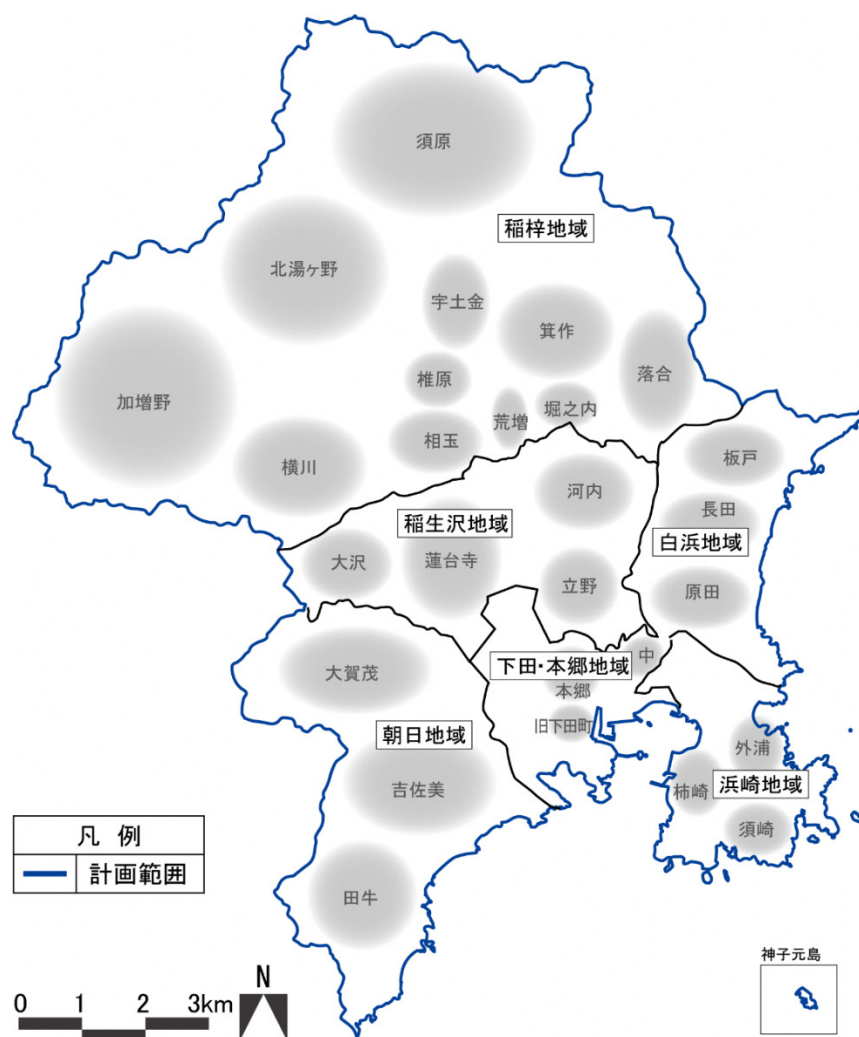


## 4 景観計画の区域

下田に携わる全ての人が景観に関心を持ち、良好な景観の形成に取り組んでいくため、本計画は、市域全域を対象とします。

一方、前項でみたように、昭和30年(1955)の市内の各地域で、それぞれに歴史や生活文化に起因する特徴が色濃く残っており、これらを「地域固有の景観」として捉えることができることから、本計画においては下図に示す6地域を設定することとします。



下田市景観計画範囲図

江戸時代に1町28村あった下田町と周辺の各村々は、明治22年(1889)の市制町村制の施行後に再編され、下田町・稲梓村・稲生沢村・浜崎村・朝日村の1町4村となったのち、明治29年(1896)に浜崎村から白浜村が分離して1町5村となります。

その後、昭和30年(1955)に下田町・稲梓村・稲生沢村・浜崎村・朝日村・白浜村が合併して「下田町」となり、昭和46年(1971)に市制施行により現在の「下田市」となりました。

このように、時代の変遷によってまちの区域分けに変化はあるものの、地域としての「まとまり」が形成されてきています。